



爺と巫女が舞い踊る、このふるさは変わらずに、
のどかで穏やかに、今も昔も続いています。

巫女爺人形操り

新潟県指定無形民俗文化財

一 横町屋台人形巫女爺保存会

【奉納神社】 **二荒神社** につこうじんじや
【上演日時】 毎年7月13日午後8時(平成町)、14日午後2時・午後8時
(二荒神社)、15日午後2時30分(本町通り)、15日(千秋祭)
午後8時(平成町)
【特徴】 お祭りには、保存会員らが「文字笠をかぶって、時代絵巻を繰り広げながら、屋台を神社まで曳き回す。上演の前には「スガキキ※」という歌のない曲を演奏し、人寄せを行う。それから「巫女」の舞を始め、その後「爺」が数曲を舞う。平成24年の上演は、20年ぶりに衣替えして「晴れ舞台」となった。 ※萱垣 雅楽の響の基本的な奏法旋律型



二 千谷巫子爺保存会

【奉納神社】 **日吉神社** ひよしじんじや
【上演日時】 毎年8月15日 午後7時〜午後7時30分頃(日吉神社)
【特徴】 「爺」は、屋台はなく、舞台の上で椅子に腰掛けて操る。赤い頭に赤いちゃんちゃんこを着、着物に袴を着て、コタツやぐら風の台座に載せているので、足はないが椅子に座っているように見える。大正天皇即位の記念に上演されたのを最後に途絶えていたが、昭和58年に上演が復活した。



三 三仏生巫女爺保存会

【奉納神社】 **白山神社** はくさんじんじや
【上演日時】 毎年8月26日 午後8時30分(白山神社)
【特徴】 屋台は二階作りで、「巫女」は一階から操作するため、舞台が高く作られている。「爺」は、笑いの目と驚きの目で、溢れんばかりの喜悅の表情をもつ。長く途絶えていた「巫女爺」は、終戦後昭和25年頃に復活したが、数年後に途絶え、その十数年後、町内の有志の努力により再び復活した。



四 片貝伝統芸能保存会(巫女爺保存部)

【奉納神社】 **浅原神社** あさはらじんじや
【上演日時】 毎年9月8日午後3時(大屋敷十字路 保存会)、午後4時(に組総合センター) 巫女爺子供教室、午後6時(浅原神社・保存会)
【特徴】 お祭り以外でも依頼があれば、屋台風の仮設を作り、上演している。最初の演目は「みちびき」の曲で巫女が舞い、演目最後の「品玉の曲」では、爺の前から品玉のお化け人形が次々と飛び出し、観客を喜ばせている。新潟県文化財指定を機に「巫女爺子供教室」を開設し、地域に伝わる伝統芸能の保存・伝承に努めている。



五 太郎丸巫女爺保存会

【奉納神社】 **新浮海神社** しんうみじんじや
【上演日時】 毎年4月中旬の土・日曜日(新浮海神社)
【特徴】 「巫女」と「爺」は、屋台の上ではなく、舞台の上で蚊帳を隔てて直接後ろから演じる。他のところと違うのは、「巫女」と「爺」の人形を曲目に合わせて同時に踊らせている。現在は、保存会だけでなく小・中・高校生の子どもたちにも伝承され上演に向けて練習に取り組んでいる。



六 不動沢巫女爺保存会

【奉納神社】 **熊野神社** くまのじんじや
【上演日時】 毎年8月20日過ぎの土曜日午後8時(熊野神社)、土・日曜日集落内屋台巡行
【特徴】 指人形「三番叟」は、上演の最初、舞台の清めの舞を三本の指を使って踊らせる。他のところと違って「巫女」と「爺」の位置が逆。「巫女」は神功皇后、「爺」は武内宿禰であるといわれ、武内宿禰が日本最初の大官の位についた喜びをこめて、皇



七 岩田郷土芸能保存会

【奉納神社】 **岩田神社** いわたじんじや
【上演日時】 毎年8月15日・16日山車※を曳き回した後、その年の班長宅近くで上演、15日午後9時岩田神社奉納
【特徴】 長い間途絶えていた「巫女爺」は、中越地震からの復興、地域の活性化を図るため、祭りや伝統芸能の保存に求め、約八十年振りの「巫女爺」復活となった。山車※も人形も地元住民が手作りしたもの。「爺」は、真つ赤な頭巾・着物・袴をまとい、真つ白い眉毛と髭、祭り囃子に合わせて操り踊る。 ※山車は通常「だし」と呼ぶがこの地域では「やたぎ」と呼んでいる。



八 十楽寺祭り芸能保存会

【奉納神社】 **白山神社** はくさんじんじや
【上演日時】 毎年8月15日午後1時より集落内巡行、途中数力所で上演後、白山神社奉納
【特徴】 「爺」は、薄黄色い頭巾に派手な緑色の着物に赤いちゃんちゃんこをまとっている。交互に若い衆も屋台の上で「手踊り」をする。飯塚から十楽寺に婿にきた人が祭りで踊らせたのが始まりだと言われている。



九 飯塚郷土芸能保存会

【奉納神社】 **飯塚八幡神社** いひづかはんぱんじんじや
【上演日時】 毎年8月15日午後1時(八幡神社)、14・15日集落内屋台巡行
【特徴】 屋台の上では「爺」の人形が踊るだけでなく、「手踊り」と称して、爺の踊りと交互に若い衆も一緒に踊るのが特徴。集落の全戸を門付け(家の前で上演して踊る。平成2年には、文化庁主催の「関東ブロック民俗芸能大会」で上演した。



十 親沢手踊り保存会

【奉納神社】 **一王子神社** いちおうしじんじや
【上演日時】 「一王子神社祭礼(毎年8月16日過ぎの土・日曜日)・土曜日(宵宮)午後4時30分より町内屋台巡行後、一王子神社奉納
【特徴】 「爺」は、赤い頭巾、真つ白い眉毛と長く伸びた髭、美麗な衣装をつけてちょんこんと座っている姿は憎めない。操り手は、白い幕の後ろから操るので人影はほとんど見え「爺」が独りで踊っているように見える。人形を操る二人は「爺」が見えないため、息の合った動きが重要となる。



十一 河内御子爺保存会

【奉納神社】 **深沢神社** ふかさわじんじや
【上演日時】 深沢神社秋季大祭(毎年8月の第三もしくは第四の土・日曜日)・土曜日午後6時から午後7時(宵宮)・日曜日午前10時から午後2時(本宮)・河内公民館から深沢神社の道中
【特徴】 河内の「ミコジイ」は、他と違って「御子爺」の文字を当てている。山車を引き、笛・太鼓の「シャギリ」に合わせて踊らせ、町内中を回る。「爺」は赤い着物、紫の袴をまとい、白く長い髭をはやし、「御子」は「爺」の脇に座っているだけで踊らない。



江戸時代から舞い続け 刻んできた歴史
巡る時を今に伝える 十二地域の「心のふるさと」
新潟県中越地方に全国的にも珍しい民俗芸能がある。「メッコンジサ」「ミコジサ」などと呼ばれて親しまれてきた、この地方にしか見られない、新潟県無形民俗文化財の「**巫女爺人形操り**」である。
江戸時代中期、小千谷市横町(現平成町)に風長と言う旅籠屋があった。二人の傀儡師(人形遣い)が逗留し、家賃の不足分として「ジサ」(年配男性の俗称)の頭を置いていた。見る人にも巧みな作りで、たちまち近所の評判となり、向かいの紺屋の職人衆が着物を着せ、振り付けを考案し、踊らせたのが始まりだと言う。そして一人では寂しかったので相棒に「アネサ」(成人女性の俗称)が作られ、「爺」と「巫女」二人の人形として、祭りでは重要な役割を果たすようになる。その後江戸末期から明治初期には近郷近在へ次々と伝承されていった。
巫女爺の操法は、爺の両袖に直接手を差し込み、踊らせる直接遣い操法である。屋台に載り、町内を曳き回し、最後は神社で奉納芸として演じられてきた。
ど様々である。笛、太鼓、鉦等の優雅な囃子に、江戸時代の流行歌に合わせ、派手な着物を着せて、やや乱暴かと思つくりの巧みな踊らせ方はユークレラスで極めてユニークであり、祭りを引き立たせ、賑やかなものになっている。
巫女爺の呼び名は、この地方では現在「ミコジイ」に総称されている。これに当てる漢字も「巫子爺」「御子爺」色々であるが、呼び名にそつて自由に漢字を当てたものと思われる。新潟県無形民俗文化財に指定されている十二団体(本誌中37ページ参照)が、その保存・伝承担手の育成等を活発に行っている。
本紙の上演日時等の情報をご参照の上、新潟県中越地方に伝わる、全国的にも珍しい民俗芸能をぜひ一度ご覧いただきたい。

【奉納神社】 **神明神社** しんめいじんじや
【上演日時】 毎年8月の第四日曜日(神明神社祭礼)、午前11時から4時30分頃まで町内を屋台巡行
【特徴】 「爺」は、屋台の上で踊らせる。飯塚に住んでいた方が水梨町に移住した時に、「巫女爺」の導入を持ちかけ、町内有志の熱意と情熱により平成12年神明祭礼に初めて上演された。大勢の子どもたちがお囃子に加わって、将来的にも伝統芸能の伝承が期待されている。

奉納神社 & 上演会場マップ

■ 奉納神社
 ● 上演会場
 → 町内巡回ルート

九 飯塚 飯塚八幡神社 マップ B-3



八 十楽寺 白山神社 マップ B-4



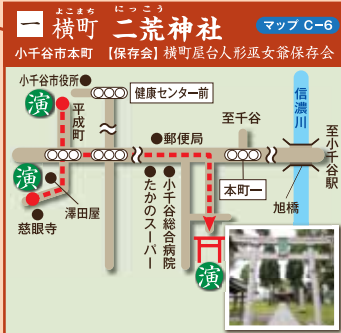
七 岩田 岩田神社 マップ B-4



六 不動沢 熊野神社 マップ B-4



五 太郎丸 新浮海神社 マップ A-8



巫女爺伝播図



あったてんがの 其の一
 昔々、ある所に旅籠屋があった。ある日旅人が泊まって帰ったあと、部屋の掃除をしたら、押し入れの中から人形の頭が出てきた。出来映えが非常に良く、お爺さんの顔立ちがやさしそうな笑顔の人形であつたため、向いの紺屋の人たちがその人形を借り受け、自ら人形に着物を作って着せた。そこで町内のお祭りに人形を滑稽に踊らせてみたところ評判がよく、陣屋の役人も大変喜んでお酒2升頂いたと言う。

あったてんがの 其の二
 昔、武家の主人が切腹させられ奥方も亡くなり、年老いた家来がお姫様を守って落ちのび、寺にかくまわれてひそかに暮らしていたが、姫が余りにも寂しがるのでその機嫌をとるために家来が踊ったのを村人が見て覚えてのが始まりと言われている。

あったてんがの 其の三
 昔々ある村に働き者の爺さんがおった。毎日毎日畑に出て精を出していたが、作物が病気になるなり、害虫が付いたり、一向に良い作物が出来ない。病害虫は益々多くなり、爺さん一人ではどうすることも出来ず、困り果てていた。そこへ一人の美しい少女が現れ、優雅な踊りを舞うと今まで集れ狂っていた病害虫は、神に仕える巫女さんのお出ましと、一目散に逃げ去ってしまった。これは良いものだ」と爺さんとも一緒に踊り始める。これを見ていた村の若い衆が真似て、村の祭りで踊ったのが始まりだと言う。

観光ガイド・おすすめコース

まつり	
長岡まつり大花火大会 長岡市商工部観覧課 ☎0258-39-2221 起源は「戦災復興祭、震災復興花火・フェニックス」など、約2万発の大花火は正夜。【開催期間】毎年8月2・3日	長岡市おぐに森林公園 長岡市山形町上岩田208 ☎0258-95-3161 林間広場、キャンプサイト、バーベキュー場のほか、宿泊施設、レストラン「兼美園」がある。【営業時間】10:00~21:00(冬季:20時まで)【休館日】毎週日曜日(その日の日曜日、年末年始)
越路ほたるまつり 長岡市越路支所産業建設課 ☎0258-92-5903 メインのほたるを観賞を始め、ステージイベントや先着プレゼントなど家族で楽しめる。【開催日】毎年6月下旬	湯どころ ちぢみの里 ちぢみの里 ☎0258-81-1717 道の駅に隣接する温泉、和洋2つの大浴場のほか、小千谷そばを味わえる食堂あり。【営業時間】10:00~22:00【休館日】水曜日(祝日の場合はその翌日)、12月31日、1月1日
もちひとまつり・大花火大会 もちひとまつり・大花火大会実行委員会事務局 ☎0258-95-5906 小千谷地域の「以仁王(もちひと)とう」遠く伝説、を再現した平安行列が見どころ。【開催期間】8月の最終日曜日	おみやげ・お食事処 サンプラザ サンプラザ ☎0258-83-4800 小千谷市城内1-8-25 小千谷の特産品を販売、名物「へぎそば」が味わえるそば屋をはじめとした飲食店も。【営業時間】9:00~18:00(冬季は17:00まで)【休館日】12月29日~1月3日
二荒神社祭礼 小千谷観光協会 ☎0258-83-3512 小千谷市本町 「巫女様」や「青年獅子舞」が上演されるほか、家族で楽しめる企画が盛りだくさん。【開催期間】毎年7月13日~15日	小千谷そば(へぎそば、手振りそば) 小千谷観光協会 ☎0258-83-3512 布海苔(ふのり・海苔)を使った、なめらかなどこしと歯ごたえのある食感が特徴。「へぎ」と呼ばれる麺に盛り付けると、重厚な食感から「へぎそば」、手振りそばとも呼ばれる。
おぢやまつり 小千谷観光協会 ☎0258-83-3512 おぢやの夏を彩るからくりワイド・リードや大花火大会のほか、長縄跳び、仮装パレードなど。【開催期間】8月下旬の金~日曜日	史跡・文化財
片貝まつり 小千谷観光協会 ☎0258-83-3512 まつりのメインは、ギネスブックに紹介された世界一大きい花火「正四尺玉」の打上げ。【開催期間】毎年9月9日~10日	馬高縄文館火土器ミュージアム 長岡市関原町1-3060-1 ☎0258-46-0601 火土器の発見地にかかわる資料を紹介するガイダンス施設。【開館時間】9:00~17:00【休館日】月曜日、年末年始
見る・楽しむ・味わう	長谷川邸 長岡市塚野山773-1 ☎0258-92-5903 越後最古の豪農の館、国の重要文化財に指定。【営業時間】9:00~16:30【休館日】12月から3月の平日、年末年始
国営越後丘陵公園 長岡市宮本東方町字三ツ又1950-1 ☎0258-47-8001 雪割草、ばら、コスモス等、季節ごとに多彩な花を楽しむほか、遊具も充実。【開園時間】9:30~17:00※季節で異なる【休園日】月曜日、年末年始等	寶徳山稲荷大社 稲荷所 ☎0258-92-3341 三社の神を祀った朱建りの大社が目印、祭事には全国から信者が集う。
雪国植物園 長岡市宮本町3 ☎0258-46-0030 雪国の山をそのまま活用、高山・外寒・園芸植物などの自然植物が観どころ。【開園時間】9:00~17:00【開園期間】3月下旬から11月中旬、(開園期間中は無休)	真福寺(木喰仏に王尊・立木観音) 新潟海山 真福寺 ☎0258-95-2173 長岡市小国町小国沢2421 木喰上人(1718-1810?)の手による、一本の樹から作られた二体の王尊、立木に彫ったとされる観音像仏(木観音)もある。
もみじ園 長岡市朝日600 ☎0258-92-5903 樹齢150~200年のもみじや楓を有する景観豊かな回廊、紅葉の時期は園内をライトアップ。【開園期間】4月~11月(紅葉の見頃は11月上旬~中旬)	木喰観音堂 小千谷市小栗山3467 ☎0258-83-3512 33体の観音像と、ほか2体が奉納されており、微笑仏として親しまれている。(県指定文化財)
山口庭園 長岡市小国町横沢802 ☎0258-95-2002 豪農・山口家の邸宅跡にある京風回遊式庭園、互尊文庫を長岡市に寄附した野木互尊の生家。【開園時間】9:00~16:30(月~金、土・日休館は要予約、日曜日・冬期間閉園)	慈眼寺 慈眼寺 ☎0258-82-2495 小千谷市平成2-3-35 立派な山門は「仁王門」とも呼ばれる。北越後戦戦勢激変の場「河井・岩村合戦」がある。

ゆったりのんびりコース

長谷川邸 A-5 ↓ 20分	長岡市おぐに森林公園 A-7
小千谷そば(食事)	
木喰観音堂 E-5 ↓ 20分	
湯どころ ちぢみの里 D-6	

秋の風情を満喫コース

国営越後丘陵公園 B-2 ↓ 30分	寶徳山稲荷大社 B-4 ↓ 20分
真福寺(木喰仏に王尊・立木観音) A-8 ↓ 25分	慈眼寺 C-6 ↓ 25分
もみじ園 C-3	

発行者 / 新潟県長岡地域振興局 企画振興部 ☎0258-38-2507
 発行日 / 平成25年1月
 協力 / 巫女爺伝播協議会、小千谷市教育委員会、小千谷観光協会、小千谷市、長岡市
 印刷 / 吉原印刷株式会社